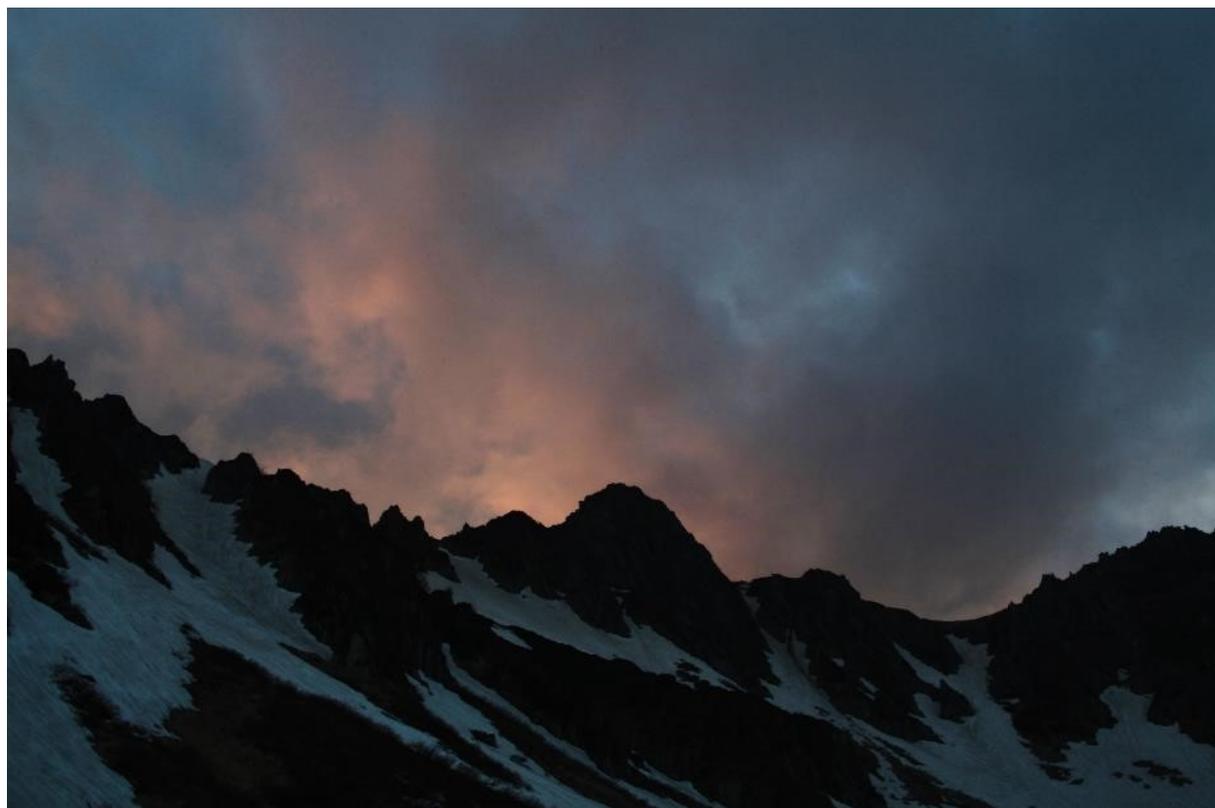


山岳友の会会報

2016年9月 第22号



宝剣岳の夕景 撮影：荻野秀夫

もくじ

第25回現地研修会「中央アルプス千畳敷カールを訪ねる」

報告その1 本家 保治……………2

報告その2 小林 久雄……………3

第23回上高地談話会

報告 小林 久雄……………3

第24回上高地談話会（第7回涸沢談話会）

報告その1 塩沢 乃武行……………4

報告その2 横田 耕太郎……………6

涸沢談話会替え歌……………7

こんな登山をしました「北アルプス大トラバSRルート」 小林 久雄……………7

第 25 回現地研修会「中央アルプス千畳敷カールを訪ねる」 報告その1

5月21日

午前8時に信大を出発、途中「かんでんぱぱガーデン」や「マルスウィスキー」に立ち寄り見学後、菅の台 BS に到着昼食をとる。午後1時頃、山岳路線バス・ロープウェーを乗り継ぎ千畳敷に着く。快晴のカール、明日が楽しみとまずビールで乾杯。

午後3時より、駒ヶ根市立図書館長小川先生から「中アの植物・動物」と題し、講演を聞く。



途中参加者が体調不良になり中断したが、予定した内容をお話しいただいた。高山蝶に関して新たな興味が沸いた。

夕食は山の上と思えない内容で皆おいしく頂く。その後の2次会において、森川社長からロープウェー建設工事の経緯を聞くことができ、当時の方々のご苦労されたことがよくわかった。お酒も

いっぱいあり、大いに盛りあがった。

5月22日

皆さん朝早く夜明け前から、部屋の中でごそごそ部屋を出たり入ったり落ち着かない様子。外を見ると今日も快晴である。5時を少し回った頃、待ちきれない数名の方は山頂に向かって出発していった。少し遅れて、グループ本体が浄土乗越をめざす。アイゼンをきかせて雪渓を登った。稜線に出ると、西風が非常に強く15～20m/秒あろうかと思われた。強風の吹く木曾駒ヶ岳の頂上もそこそこにして、下山を始める。途中岩陰で風をよけながら休憩・食事をとる。鎖のある岩場を通り、宝剣岳の頂上に着くと風はぴたり止んだ。狭い頂上であったが、思い思いに南ア・木曾御岳山・北アを存分眺めることができた。



今回の現地研修会は、森川社長のご配慮もあり、宿泊を含め往復のバス・ロープウェーは団体専用バス、臨時便とスムーズに移動ができました。森川社長に感謝いたします。

5:15 宝剣山荘出発——6:15 中岳着——6:40 木曾駒ヶ岳着——7:00 中岳朝食——
7:50 宝剣岳着——9:05 山荘着——下山

本家 保治

第 25 回現地研修会「中央アルプス千畳敷カールを訪ねる」 報告その2



南信の三浦副会長や中村さんに準備いただき、天候にも恵まれてバスは伊那路に到着。信大農学部で集合後に「かんでんぱぱ」を見学。今年1月に亡くなられた青野さんの「信州の桜写真展」に見入りました。

マルスウイスキー工場では、試飲してワインなども購入し千畳敷を目指しました。バスを乗り換えて林道を進みますが、つづら折の険しい道にビックリです。ケーブルカーに乗り換えて 2600m のカールに一気に登りました。建設から50年を迎えるとか?スゴイものを作ったものだと感動です。

到着後に「生ビール」で喉を潤し山岳景色を堪能しました。

講義の後は夕食と宴、明日の「木曾駒・宝剣」に備えて9時には床に着きました。

快晴にも恵まれて、アイゼン装着しての雪渓登り、稜線の風はかなり強かったけど頑張って「木曾駒山頂」戻って「宝剣岳山頂」と登頂できました。

楽しい「千畳敷カール」現地研修に森川さん三浦さん中村さんに感謝します。



小林 久雄

上高地談話会 in 横尾山荘

6月11日 横尾山荘で「上高地談話会」が開かれた。

奥上高地の登山基地として、槍ヶ岳や穂高・涸沢や蝶ヶ岳などへ向かう登山者が必ずや通る。山荘の歴史や最近の登山者事情などオーナーの山田さんからお聞きした。



お昼過ぎに次々に集まった会員は、まず中庭で山田さんの奥様の美味しいパンとビールで堪能した。ホントに美味しかった。登山者に人気の山小屋のお風呂や発電機などの施設も特別に見学させていただいた。一の股沢の付近あった北アルプスホテルのお話や涸沢に向かう昔の橋の写真とお話に驚きながらも山田さんのお話

は続いた。特に最近の道の修復工事の苦労話では、関連の役所への申請や工事の大変さが良く解った。登山者の多様化で上高地からの治山道の扱いが重要になっていることや高齢化やマナーのお話にいまさらながらのご苦労が身にしみました。さらに、大宴会の過分な「おもてなし」に感動の一夜でした。付録でBS放送も見せていただき満足でした。

翌日、希望者で槍沢を天狗の池に向かいましたが残雪の登山に少し無理があったようで参加者全員が、天狗の池には行けませんでした。事務局の今後の反省とします。

小林 久雄



第24回上高地(涸沢)談話会と

special option tour〔北尾根5・6の科尔から第5峰山行〕に参加して

初めて投稿させていただきます『塩沢』です。

涸沢談話会に参加するのは今回が3回目、涸沢ヒュッテに到着できた時の感激はその都度違い、経済学的な法則*1に反して新鮮でした。

環境・景観の変化はもちろんですが、鈴木先生ヒュッテ到着時の感動(!)は格別でした。

昼食カレー・ラーメンをすすめる久雄さんたちを尻目に「流動食の発酵麦汁が最高ですネ」などと話しつつビールのジョッキ一片手にデッキからの景色を眺めようと出入口方向へ歩み進んでいた私と、扉を開けるや否や、汗だくの先生とバツタリ鉢合わせ、1杯の生ビールを伴に味わいヒュッテ到着を祝福(到着者たる先生に変わりたいぐらい...)仕込み困難な出合・鉢合わせは(!)ビックリポンでした。



さて北海道学園大学高橋伸幸先生『北アルプスと大雪山の高山帯環境』の概要ですが報告するほど理解できていないのが本音(発酵麦汁のせいでしょうか、うなずいてばかりでしたが...)大雪山の砂礫帯は冬季の凍結と夏季の解凍により下方向に移動しているほか、『永久凍土』が地表面から1メートル掘下げると見られるとのこと、名古屋万博で『永久凍土の凍結マンモス』を連想してしまい、ロシア北部にしか存在しないと思っていましたが日本にも、そして北アルプスにも可能性がないわけではない話題で、涸沢を取り巻く環境変化を探るもう一つの手立てではないかと知識のない私なりの脳内展開でした。

更に高橋先生のペルー『ウユニ塩湖』ご視察紀行を画像とともに拝聴させていただきました。

アンデス山脈に囲まれた標高3700mは涸沢ヒュッテ(標高2300m)よりも高く、湖の塩

ならばホテルも塩、塩のブロックを積み上げて作られている塩湖ならではのホテルがあるとのお話、『友の会で行かなきゃ』の声も上がりましたが(標高とともに〇が高くなるのでは・・・世界遺産マチュピチュやナスカの地上絵も抱き合わせで良いのでは・・・) お決まりの大宴会を催していただき例年と変わりなく久雄さんの変(編)曲をいただきながらの談笑会、発酵麦汁乾杯から始まり、翌朝の special option tour 『5・6の科尔山行』の雪渓状況報告を受けつつお開きとなりました。



翌朝6時の朝食後、7時小林久雄さんを先頭にヒュッテを出発、雪渓・ガラ場を経由して『5・6の科尔』着、山口社長からヘルメットを授与され、雪解けによる岩の不安定から落石の起きやすい足元、メットの



必要性を更に感じました。『5・6の科尔』にて徳沢方向右『奥又白池』を確認、ハエマツに沿って8時半ころ第6峰の山頂へ到着、360度の大パノラマ、南は遠く雲海上に富士山、手前は梓川に沿って徳澤園の赤い屋根、横尾山荘を確認、常念岳・大天井を眺め、北は奥穂高岳と山荘を望むことができました。出発前のお話しの通り滑空すれば直ちにヒュッテ帰還できるほど近く、真下に湊沢ヒュッテを見ることができました。

ヒュッテまでの下山ルートは来た道に戻るルート、ガラ場も足元のしっかりしているところを選びつつ、雪渓では靴のかかとでしっかりグリップさせて降り、予定の10時ころにはヒュッテに戻ることができました。

振り向けば『北尾根の第6峰』ヒュッテが真下に見えたはずなのに、頭上にはありません不思議なものです。



私より年配の諸先輩諸の方々のご元気(山登り早い! お酒強い!)で活躍されていることに『尊敬の念』を抱き、来年は山岳用ヘルメット・アイゼン・ピッケルを装備して雪渓移動がさらに安全にできるよう体力も増進させ参加したいと思います。

今回も諸先輩の方々にお世話になりありがとうございました、今後とも精進し、この地に臨(望)みたいと思います

今後ともよろしく願います。

参考: HIS『ウユニ塩湖&ペルー周遊10日間ツアー』ベストシーズン12~3月 ¥67~75million/人

* 1; 経済学的法則: 限界効用逓減(げんかいこうようていげん)の法則[回を重ねると効用(満足度・感動)が低下する]

塩沢 乃武行

第 24 回上高地談話会 涸沢談話会



涸沢ヒュッテを会場に7月に開かれるこの涸沢談話会に参加して5年目。こんなに雪のない涸沢は初めてです。緑は濃くなりミヤマキンバイ咲く涸沢。そんな涸沢で行われた今回は、「北アルプスと大雪山の高山帯環境」について、北海道から来られた高橋伸幸先生の講演がありました。参加者は 20 名ほどで、こじんまりとした会でしたが、講演会もその後の懇親会もとても有意義なものとなりました。

たまたま取材で涸沢ヒュッテに訪れていたNHKの取材クルーも同席しての会。取材された一部は、後日放送になりました。その放送でも紹介されたのが、先



に大きな崩落のあった現場。涸沢でも音が聞こえたというその現場は、予想以上に幅が広いものでした。自然の力のすごさを改めて見せつけられた気がします。

さて、翌日は小林久雄さんの案内で、オプションツアー「北尾根(56の科尔)を登る」に参加しました。



ヘルメットを着用し、急な雪渓を登っていくと、やがて現れるガラ場にアイゼンを置いてさらに一步一步登っていきます。崩れやすい不安



定な岩を慎重に登っていきます。下りが大変そうですが、一時間ちょっとで到着した56の科尔からは、富士山をはじめとした絶景に疲れが吹っ飛びます。

一行はさらに6峰を目指します。ハイマツの隙間をぬうように進むと、やがて槍ヶ岳も見える場所に来ました。あともう少しで6峰ですが、自分は予定があつて時間がなかったので、ここで下山することにしました。クロユリやハクサンイチゲの咲く科尔は、一時の安らぎを与えてくれました。楽しいツアーを企画してくれた久雄さんに感謝です。

横田 耕太郎

【 第7回 涸沢談話会 】を記念して

「靴が鳴る」清水かつら作詞・弘田龍太郎作曲

替え詩 こぼQ



お手(てて)つないで 野道を行(ゆ)けば
みんな可愛(かわ)い 小鳥になって
歌をうたえば 靴(くつ)が鳴(な)る
晴れたみ空に 靴が鳴る

橋を渡って 本谷行(ゆ)けば
口笛愉(たの)しい せせらぎ涼(すず)し
歌をうたって 友(とも)の会
涸沢カールに 友の会

花をつんでは お頭(つむ)にさせば
みんな可愛(かわ)い うさぎになって
はねて踊(おど)れば 靴が鳴る
晴れたみ空に 靴が鳴る

仰(あ)ぐ北穂(きたほ)に 花道行(ゆ)けば
前穂(まへほ)吊(た)り尾根(おしね) 涸沢ヒュッテ
雲(くも)湧(わ)く奥穂(おくほ)に 涸沢カール
歌をうたって 友の会

(ゆったりと堂々と Enging)

♪ 涸沢ヒュッテの 談話会 ♪

こんな登山をしました。【北アルプス大トラバスルート】

この冬亡くなられた北アルプス南部常駐隊長の猿田さんの一言。「槍沢のレスキューからの帰り道は、天狗の科尔からのトラバスが早い。」それならば残雪期に挑戦するか？と思って。5月の晴れ間を狙って行ってみました。12日13日14日の3日間。

上高地(横尾)から槍沢をグリーンバンド下まで詰めて天狗原に登り、天狗の科尔でビバーク。



天狗の科尔にテント

翌日南岳の尾根の小ピーク2652mに下降しながらトラバスして登り返す。

更に大キレットの東側の台地を横切り北穂高岳真下(北東)も横切り、南に登り返し東稜を乗越し、北穂沢を下降して涸沢小屋の上部台地を横切り涸沢カールにと大トラバスを試みた。

快晴の13日は7時から6時間の格闘で13時に涸沢ヒュッテに到着しました。

残雪の急傾斜のアイゼン歩行に気遣いしながらの6時間です。

北穂の景色は圧巻です。

キレットの台地の横切りも痛快です。

北穂の池から東稜への登り返しが大変でしたが.....素敵なルートでした。

興味があったら問合せください。

小林 久雄



前穂朝焼け



東稜へ

信州大学山岳友の会会報 第22号

発行日：2016年9月21日

発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp